

校長室だより



令和2年7月27日

校長 齋藤 瑞穂

「負け」と向き合う

先週、すぎしち教室の授業を観に行きました。すぎしち教室では、勝ち負けのある運動をするときに大切なことを学習していました。

勝負事では、だれでも、負けたくない、勝ちたいと思っっているでしょう。でも、引き分けにならない限り、勝つ人がいれば負ける人もいるのが勝負です。

16日に、将棋の世界で最年少タイトル記録を更新した藤井 聡太棋聖には、こんなエピソードがあります。藤井棋聖が小学2年生で出場した、プロ公式戦と同時に開かれる「テ



ブルマークこども大会」という全国規模の子供将棋大会の決勝戦でのこと。藤井棋聖は大きなミスをお犯します。藤井棋聖がその一手を指すやいなや、会場がおどろいてどよめいたほどの「懸手（懸い手）」。もちろん、藤井棋聖も自分のミスにすぐ気がきましたが、プロ棋士も対局する同じ壇上で、たくさんの観客を前にしてとりかえしのつかないミスをしてしまったくやしさとはずかしさに気持ちを立て直すことができず、投了（試合終了）しました。藤井棋聖は表彰式でもくよしさのあまり泣いていたそうです。藤井棋聖は当時をこう振り返ります。

「小さいころは、負けるとすぐ泣いていました。くよしい気持ちをおさえられなかったんです。

でも、じょじょにくよしさをコントロールできるようになり、奨励会（プロ棋士養成機関のようなところ）に入ってからにはあまり泣かなくなりました。負けたことに正面から向き合うのは大変なこと。けれど、向き合ってくよしい気持ちを次の対局へのモチベーション（やる気、意欲）に切り替えていくことが大事だと思っています。」

（プレジデント Family2019年秋号より）

だれだって、負けはくよしいものです。負けを認めたくなくて、つい言い訳したり負けおしみを言ったりしてしまう人も少なくないでしょう。でも、負けを受け入れ、正面から向き合うからこそ学べることがあります。それは、自分の弱点であり、次は負けないために努力をすることであり、勝負する相手を敬い思いやる気持ちであるのです。負けを受け入れられる人は、負けを恐れず挑戦できる人とも言えるのではないのでしょうか。

藤井棋聖は、負けと向き合い、その一つ一つから学んで、最年少タイトル保持者となりました。これからもタイトル戦は続きます。勝ち続ける姿ばかりでなく、負ける時があったらその姿にも注目してみてください。

投句箱より

みずたまり 空がうつるよ すずしげに
4年 おぎはら はるか さん

雨上がり、道に残った水たまりを何気なく見たら、さわやかな青空がうつっていた——梅雨の合間のひと時の清涼感をとらえたすてきな句ですね。

保護者の皆様

1学期最後の週になりました。都内の新型コロナウイルス感染状況は依然として予断を許しません。学校では、改めて子供たちに「命を守る学校ルール」の徹底を呼び掛けるなど、教職員一同気を引き締めて感染予防対策に取り組んでいます。ご家庭でも、杉七小の児童全員が元気に夏休みを迎えられるよう、更なるご協力をお願い申し上げます。